

三番瀬評価委員会小委員会（塩浜護岸モニタリング関係）の開催結果（概要）

- 1 開催日時 平成19年10月12日（金）午後6時10分から9時
- 2 場 所 葛南地域整備センター
- 3 出席者 委員4名
- 4 参加人数 9名
- 5 配付資料
 - ・資料1 三番瀬評価委員会小委員会（塩浜護岸モニタリング関係）懇談会の開催結果（概要）
 - ・資料2 工事1年後の検証・評価（防護・環境・利用）
 - ・資料3 再生会議への検討結果報告（骨子案）

6 結果概要

- (1) 議題1「平成18年度、19年度の護岸改修工事に係る環境監視結果とその評価について」及び 議題2「平成20年度以降の環境監視手法の改善について」

事務局から、資料2に基づき、平成18年度の護岸改修工事1年後の検証・評価についての説明があり、その内容について、各委員からの質疑応答、意見交換が行われた。

地域の防護の確保の検証・評価について

(岡安委員) 検証のための指標に「”緊急対応”への指標」がある。”緊急対応”という名称であれば、当然他の指標よりも優先的に取り組む必要があるように感じられるので、指標の言葉について検討いただきたい。

工事1年後の検証・評価について（環境）

目標達成基準1（マガキを主体とした潮間帯生物群集が、改修後の石積護岸の潮間帯に定着し、カキ殻の間隙が他の生物の隠れ場、産卵場などに利用され、潮間帯のハビタットとして機能すること）について

細川座長まとめ

- ・18年度工事後1年を経て、生物が加入・定着が始まっており、現時点では概ね妥当な結果であると考えられる。
- ・今後、護岸がハビタットとして機能することを確認するため、長期的な変化や変遷を把握できるような手法で、引き続きモニタリングを行うこと。
- ・重要種の定着については、現時点では安定的に生息しているとは言い難く、検証の表現には注意すること。

目標達成基準2（周辺海底地形に洗掘等の著しい変化が生じないこと）について（岡安委員）現状では著しい変化は確認できない。わずかな変化は見られるが、

それが確かな理由があつての変化なのか、季節変動の中の一部なのか、はわからない。また、もう少し沖合も含めた変動が出そうな原因であれば、一部測線は、沖合まで調査を拡大しておくが良い。

細川座長まとめ

- ・観察された地形変動が、季節的変動なのかどうか確認できるようなモニタリングを検討すること。
- ・念のため、少し沖合までの地形変化を把握しておくこと。

景観・親水性の検証・評価について

(宮脇委員) 直立護岸では、ごみの漂着はあまり目立たなかった。石積みした場合に、ごみ漂着の問題が発生することは想定していなかったため、今後、課題として護岸検討委員会に提案してはどうか。

アンケート結果では、景観の評価が概ね肯定的に出ているが、「形に変化がある」、「楽しさ」は不足しているようにも読める。水辺とのふれあいが確保されているという目標には足りない可能性があるため、この点は検討課題として残してはどうか。

また、評価手法として、コンジョイント分析の手法を取り入れて、周辺も含めた景観評価を行うことを提案する。

平成20年度実施計画素案について

(倉阪委員) 現在、対照測線として調査を行っている地点が、20年度には工事区域にかかってしまう。工事の影響がない別の場所に対照測線を設定してはどうか。

(岡安委員) 工事前の元々の断面が残っている場所をモニターすることは、生物相の変化の原因を判断することができる可能性がある、という意味でたいへん良い。

細川座長まとめ

- ・工事と関係のない場所に、新たに対照測線を設けることを検討すること。

(2) 議題3「再生会議への検討結果報告骨子案について」

事務局から、資料3に基づき、再生会議への検討結果報告骨子案についての説明があった。

細川座長まとめ

- ・ふたつの小委員会同士の議論を持ち寄って、評価委員会全体で再生会議への報告をどうするのかまとめるべき。
- ・骨子案の項目立てを活用し、内容については再度整理する。

以上